

**「世界一大きな授業」、日本全国で 243 校 28,415 人。
G8 サミット関連会議メンバー、国会議員も都内の中学校で参加。**



4月23日、世界で200万人以上が参加してギネス記録の更新をめざす「世界一大きな授業」が、日本でも全国で243校28,415人が参加して行われました。

東京の本郷台中学校では、1年生と3年生の5クラスを対象に、教育協力NGOネットワーク(JNNE)に参加するNGOの職員が講師を務め、教育の機会を奪われている子どもたちについて、質の低い教育の現状について授業を行いました。

ゲストとして招かれた、東京で開催されているG8サミット関連会議の一つ「万人のための教育ファストトラックイニシアチブ」へのユネスコ事務局長補、ユニセフの教育部チーフ、ガーナ教育大臣、世界銀行ファストトラックイニシアチブ事務局長ら国連機関、政府の代表20名も子どもたちと一緒に授業を受けました。ユニセフ大使である歌手のアグネス・チャンさんは、生徒と給食をともにして、授業に参加、ユニセフ議員連盟の山内康一衆議院議員もかけつけ、それぞれのゲストから世界の子どもの現状と教育支援の必要が訴えられました。



生徒たちは、同年代の少年兵士や少女の早すぎる結婚の写真に目をみはり、教育が受けられないことなどについて、活発にグループ・ディスカッションを行いました。



同日に行われた高村外務大臣による教育協力についての政策演説の冒頭でも「世界一大きな授業」について触れられました。

(政策演説 [リンク先](#))

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/20/ekmr_0423.html